

## 『なぜ多くの犠牲』 保護者ら膨らむ疑問

河北新報 2011.3.30 木

津波で多数の児童が犠牲になった石巻市大川小。最愛のわが子を奪われた親は、がれきに埋もれた校舎や避難所で29日を迎えた。頭をよぎるは「学校はなぜ、子どもの命を守れなかったか」との思い。日ごとに膨らむ疑問と説明不足への不満は、学校に対する不信感に変わりつつある。

大川小周辺では29日も、消防団や自衛隊、警察など数十人態勢での搜索活動が続いた。子どもが行方不明になっている親たちも連日、搜索に加わっている。

6年生の娘(12)が行方不明になっている父親(42)も、毎日のように現場を歩く。「学校にいれば大丈夫、校舎の2階にでも避難していると思っていた」という。なぜこれほどの犠牲が出たのか。足を運ぶたびに、次々と疑問が浮かぶ。

3年生の息子が行方不明になっている40代の父親は、市内の避難所から、各地の遺体安置所に通う日々が続く。学校からは当時の状況について説明がない。「津波から逃げる時間は十分にあったはず。学校は子どもが犠牲になった親一人ひとりに説明すべきだ」と憤る。

「今ごろは卒業しているはずだったのに」と話すのは、6年生の息子を失った30代の母親。自宅は津波に流され、避難所に身を寄せる。卒業証書でも、卒業アルバムでも、息子の思い出が欲しいが、子どもを失った親に学校からの連絡はない」と涙を浮かべた。

6年生の息子を亡くした男性は、時間が過ぎ、冷静さを取り戻すにつれて悔しさが増す。誰が悪いではなく、徹底的に検証してほしい。今後のために子どもの死を無駄にしてほしくない」と語気を強めた。

# 友達と再会、悲しみ胸に



震災で倒壊した大川小の校舎。瓦礫の山に埋もれた校舎の残骸が、保護者らに悲しさを与えている。



震災で倒壊した校舎の前で、保護者らと子どもたちが集まり、校舎の再建を祈る。

84人死亡・不明

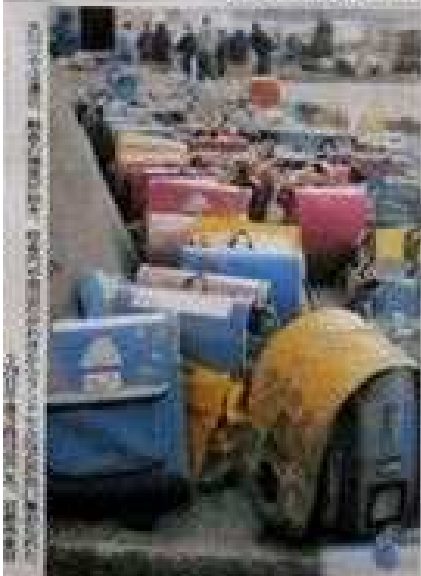
## 石巻・大川小が登校式

震災で倒壊した校舎の前で、保護者らと子どもたちが集まり、校舎の再建を祈る。校舎の再建は、保護者らにとって最大の課題となっている。校舎の再建は、保護者らにとって最大の課題となっている。校舎の再建は、保護者らにとって最大の課題となっている。

### 「なせ多くの犠牲」

### 保護者ら膨らむ疑問

震災で倒壊した校舎の前で、保護者らと子どもたちが集まり、校舎の再建を祈る。校舎の再建は、保護者らにとって最大の課題となっている。校舎の再建は、保護者らにとって最大の課題となっている。校舎の再建は、保護者らにとって最大の課題となっている。



震災で倒壊した校舎の前で、保護者らと子どもたちが集まり、校舎の再建を祈る。



震災で倒壊した校舎の前で、保護者らと子どもたちが集まり、校舎の再建を祈る。